

<今日の説教のポイント ルカによる福音書8章26-39節>

1 「悪霊」と「悪霊に取りつかれた人」を分けて考えることが大事。

悪霊の話がよく出て来ますが(4:31 以下も)、聖書が二千年前に記されたことを考えて、ばかにするのもそのまま信じるのでもなく、それが持つ意味を考えることが大事です。悪霊に取りつかれた人の姿は現代人にも見られる姿ではないでしょうか。人をそのような姿に追い込むものについて考えると共に、それからどうして救われたのかを考えることが大事なのです。それはいつの時代にもあてはまることです。

2 「レギオン」(30)、「底なしの淵(アビス)」(31)とは?

現代的に言うなら、イエス様は彼の今の人格(パーソナリティー)を形成しているものを見極められます(「名は何というか」(31))。彼が答えた「レギオン」とは数千名からなる当時のローマ軍大隊を指し、自分の人格が混乱していると訴えたのです。悪霊どもは「底なしの淵」へ行かないようにイエス様に願いますが、結局、当時そこが悪霊の本来いる場所と考えられていた場所(湖の底)に戻され、そして彼は正気を取り戻したのです(35節の描写に注目)。

3 人々はなぜ恐れた? 以前の自分たちの状態と今の違いに注目。

人々は、結局、彼が正気に戻ることで、彼が墓場で隔離されて守られていた自分たちの生活を守る(豚を失わない)ことの方が大事と考え、イエス・キリストから離れる方を選んだのです。他人事ではなく、主は「あなたはどうする」と今の私たちにも問われているのです。

4 神が(キリストが)私にして下さったことを伝える — 伝道!

イエス様は、彼がついて来るより、上に述べた回りの人々に「神があなたになされたことをことごとく話して聞かせなさい」と言われましたが、彼はイエスが自分にして下さったことを言い広めました(39)。この違い(または同一性)が重要です。直前の箇所では、イエス様は風と波を静められました(22-25)。まさに神に等しいお方を思う時、今日の箇所の出来事は少しも不思議ではないと思えて来るのではないのでしょうか。私たちが信じ、伝道するお方は、この様な神様なのです!